

令和5年度

岩泉町立岩泉小学校報



しずがわ

令和5年度 第4号
令和5年 6月9日
文責 校長 吉田 浩規

体験をとおして心と体で感じた“きずな”と“協力”

6月1日(木)～2日(金)、陸中海岸青少年の家でグリーンキャンプが行われました。初日は快晴、二日目も多少雨の降る時間もありましたが、計画していたプログラムは予定通り実施できました。帰校後の解団式では、「『みんなで協力し、友達とのきずなを深め、思い出に残る楽しい活動にしよう』は守れたと思います。」という、代表からの総括がありました。全員がスローガンをしっかり意識し、充実した時間を過ごしたことがうかがわれます。行事を通して、高学年としての逞しさを増した5年生、これからの活躍も期待しています。



ウオークラリー

地図を頼りにチェックポイントを探します。頭と体を使い、協力して難問に挑みます。

一人の力では回転がたりず…。
改めて、火の大切さを学びました。



火起こし体験



キャンプファイヤー

神聖なる火の神から分火をいただきます。

大きな岩や滝つぼなどを、手や足だけでなく、体全体を使って登りました。



沢登り

6年生からのメッセージ



5年生が学校に戻ってくる日、5年教室には、6年生からのメッセージ！さすが、6年生です♪



大きく成長した5年生

PEP TALK! で、自己肯定感を高めよう①

「自己肯定感ってそもそも何ですか？」

前回、自己肯定感を次のように定義しました。

自己肯定感とは？

「ありのままの自分をかけがえのない存在として、肯定的・好意的に受け止めることができる感覚」

心理カウンセラーの中島輝氏は著書「自己肯定感の教科書」の中で、自己肯定感を支える柱（項目）として、関連用語の意味を以下のように整理しています。

- 『自尊心』……自分には価値があると思える感覚
- 『自己効力感』…自分にはできると思える感覚
- 『自己受容感』…ありのままの自分を認める感覚
- 『自己決定感』…自分で決定できるという感覚
- 『自己信頼感』…自分を信じられる感覚
- 『自己有用感』…自分は何かの役に立っているという感覚



図 1

この6つの柱は、その内容から、図1のように3つの種類に分類できます。また、それぞれの項目の関係を図に表すと、図2のようになります。自己肯定感の土台にあるのが、「今の自分でOK!」と思えるような自尊心であり、そのうえで、「自分に対する自信」が持てたり、「自分で決めて行動」できたりします。さらに、その行動が他者に評価され、「自分は役に立っている」という自己有用感につながります。



図 2

<p>「どうせ、わたしなんかこんなだし、だめ… いてもしようがない」 自分の存在のよさに 気付けない子供</p>	<p>「学級代表などリーダーには なりたくない」 「目立たず、みんなと同じで いられるのがいい」 リーダーに なりたがらない子供</p>
<p>「めんどろ」 「やりたくない」 「何もしたくない」 活動の意欲を もてない子供</p>	<p>「だって〇〇さんは、こう言うし、 〇〇さんは、こうやれというから… 自分では決められない」 人の評価に振り回されて 行動する子供</p>
<p>「一人でいたい… 学校へ行くの、いやだな」 人との関わりを 避けようとする子供</p>	<p>「人からどう見られているのか、 こわい」 人の視線を気にする子供</p>

<東京都教職員センターH22 研究紀要より> 図 3

これらの関係性に注目して、東京都教職員センターと慶應義塾大学が児童生徒の自己肯定感を共同研究した資料(図3)によると、自己肯定感の低い児童・生徒には右のような特徴がみられるそうです。

本校児童の自己肯定感の実態については、次号でお知らせいたします。

学校ホームページ開設のお知らせ

6月1日より、岩泉小学校ホームページを開設しました。
本校の教育活動を広く発信していきます。
右のQRコードから見るができます。よろしくお願ひします。



岩泉小学校
ホームページ